

台湾における知的障害者本人活動 ——経緯・現状の検証と支援体制の構築

先端総合学術研究科 公共領域

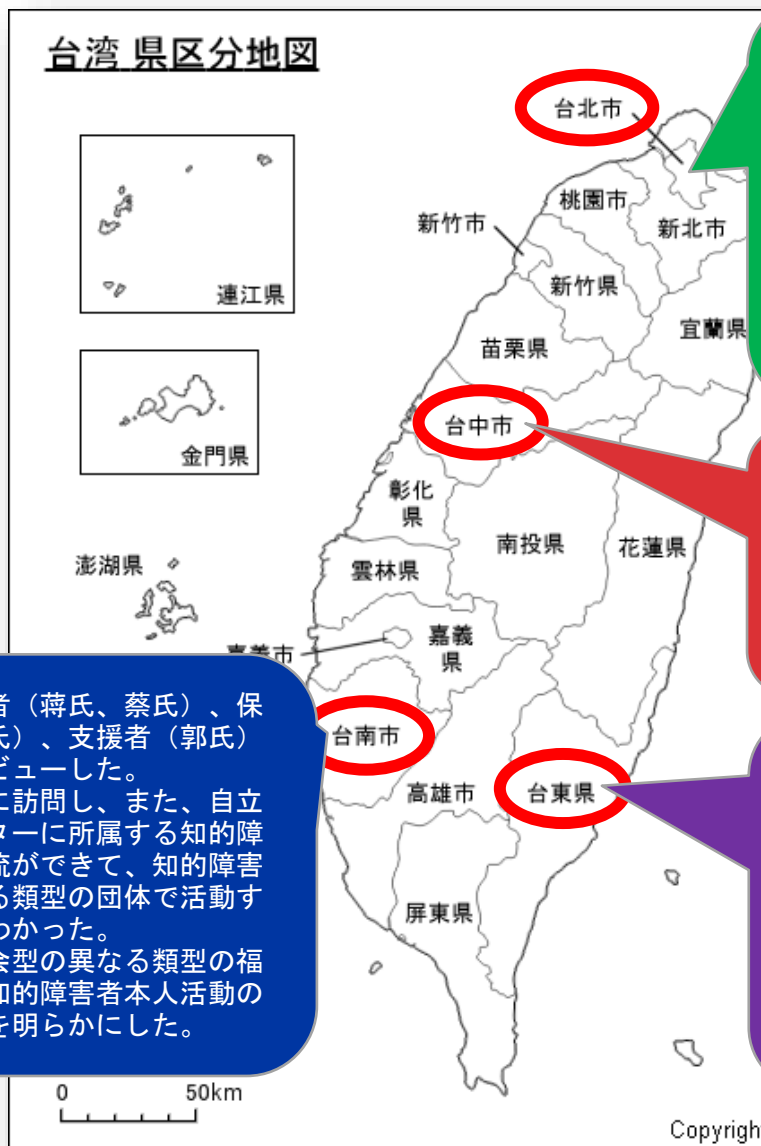
高 雅郁 (KAO, Ya-Yu)

【研究背景・目的】

東アジアにある台湾には、「中華民國智障者家長總會（知的障害者の親の会連合会、以下 PAPID と略）」は、知的障害者当事者運動の国際的な動向に合わせて、知的障害者への支援を再検討し、セルフ・アドボカシー（Self-Advocacy）をふまえた試み、そして知的障害者「本人活動」の支援として、2008 年に全国ネットワークを結成した。前回の研究活動を続け、今回は主の目的はこの全国ネットワークに参加した複数の団体に訪問し、また、各団体の参加した知的障害者や担当する支援者にインタビューして、台湾における知的障害者本人の自己決定と適切な支援の全体図を明らかにする。

【実施内容と成果】 渡航期間：2019 年 7 月 27 日—8 月 27 日（32 日）

台湾 県区分地図



- ・福祉団体に訪問し、知的障害者本人活動に参加。
- ・支援者（劉氏）、学者（李氏）にインタビューした。
- ・国家図書館にて文献調査した。
- ・日本・台湾「意思決定支援」についてのワークショップとセミナーに参加。
- ・本人活動は地方団体と全国ネットワークとのつながりと支援の差異を明らかにした。

- ・知的障害者本人活動全国ネットワーク会議に参加。
- ・支援者（張氏）にインタビューした。
- ・本人活動は地方団体と全国ネットワークとのつながりと支援の差異を明らかにした。

- ・学者（林氏）と管理者（黄氏）にインタビューした。
- ・本人活動に参加し、地方の知的障害者と交流ができて、支援者と管理者はどのように知的障害者とインタラクションをわかった。
- ・地方の親の会と大学との協力で、地方型の知的障害者本人活動のやり方を明らかにした。

- ・知的障害者（蔣氏、蔡氏）、保護者（黄氏）、支援者（郭氏）にインタビューした。
- ・福祉団体に訪問し、また、自立生活センターに所属する知的障害者と交流ができて、知的障害者は異なる種類の団体で活動することをわかった。
- ・また、都会型の異なる種類の福祉団体は知的障害者本人活動の支援体制を明らかにした。